



嬉泉の新聞 第80号 2019年（令和元年）10月発行

発行＝社会福祉法人嬉泉

東京都世田谷区船橋1-30-9（〒156-0055）TEL 03-3426-2323

http://www.kisenfukushi.com E-mail: kisen@kisenfukushi.com

「袖ヶ浦ひかりの学園」の増改築

ひかりの学園 地域支援棟



ひかりの学園 新棟



《地域支援棟お披露目会》

袖ヶ浦ひかりの学園では、昨年8月より、地域療育支援の積極的展開として、敷地内に地域支援棟の建設を進めておりました。無事に工事が終わり、7月に竣工を迎えました。

この機会に、普段から関わりのある地域の皆様に内覧頂きたいと思いいから、お披露目会の開催を計画しました。そして去る7月20日に無事に地域支援棟のお披露目会を執り行うことができました。そこに至るまでの経緯や当日の様子をお伝えしたいと思います。

袖ヶ浦ひかりの学園の歴史において、新築建物の披露をするということとは初めての経験でした。今後、地域支援棟で行う事業は、生活介護と短期入所そして相談支援と、いずれもこれまで嬉泉がこの袖ヶ浦の地域支援として実施してきたものばかりです。地域の方に日ごろの感謝とともに、これからのさらなる地域支援への意気込みをお伝えできるような場にできたらとお披露目会の計画を進めていきました。短い時間ではありますが、来場した方々に居心地よいひと時を過ごして頂けること、今後の地域支援棟での事業に関心や興味を持って頂き、そのことを身近に



石井啓常務理事

感じて頂ける内容を考え、打ち合わせを繰り返し行いました。当日までの準備は、招待客リストの作成や招待状の送付、会場準備、パンフレットの作成、会食の準備、当日の流れや職員の配置等々、まだ建築中だった地域支援棟を見学しながら、当日のイメージを作り上げていきました。

当日は、主に地域の関係者で70名近いご来賓の方々にお越し頂きました。袖ヶ浦市長はじめ議員の方々や各地域の区長の皆様、近隣施設の関係者の方々、保護者や利用者の方々と、袖ヶ浦ひかりの学園がこれまでこの袖ヶ浦で地域に向けて行ってきた事業に関わる多くの方々に集まって頂くことができました。

また、ご来賓の方のご挨拶として、袖ヶ浦市長出口清様、袖ヶ浦市地域総合支援協議会会長関口幸一様、袖



出口清袖ヶ浦市長

ヶ浦市社会福祉施設等連絡協議会会長若林和秀様よりお言葉を頂戴しました。有難いことに、どの方からも袖ヶ浦市における嬉泉の存在や役割について、

「袖ヶ浦に嬉泉があつてよかった」

「嬉泉があつてありがたい」

というお言葉を頂きました。中でも発達障害への支援やニーズの多くある短期入所サービスの拡充など、しっかりと地域に目を向けて支援やサービスが行われているという評価も頂きました。今まで嬉泉が袖ヶ浦において必要であり重要だと考え取り組んできた事業、受容的交流に基づく障害児者への支援が実を結びつつあると改めて感じられる場となりました。

乾杯の挨拶では、袖ヶ浦市社会福祉協議会会長で本法人の評議員でもある小島直子様より暖かいお言葉と

ともに乾杯のご発声を頂きました。会食中は、どのテーブルでも皆様会話が弾み、お披露目会という場とは思えないほど笑顔や賑やかな会話が溢れるアットホームな空気で包まれていました。またご招待した各区長の方が皆様ご出席下さり、地域の方々に温かく見守っていただいていることや嬉泉がこの地に根付いてきていることを感じる事ができました。



小島直子袖ヶ浦市
社会福祉協議会会長

会食中には、事業所紹介の時間を設け、この地域支援棟で今後行われる事業についての説明をしました。1階が生活介護スペース、2階には短期入所として10名の受入ができる個室、以前は相談支援事業のしみとして別棟に行っていた事業が、新たに相談支援事業えにしとして地域への事業がこの地域支援棟に集結することとなりました。そして事業

紹介として日常的な活動や支援をお伝えしようと思ったのですが、なかなか言葉だけで伝えることは難しいと考え、袖ヶ浦ひかりの学園の利用者の方々の日常の姿として笑顔あふれる映像を見て頂きました。

どんな言葉で説明するよりも、わかりやすく伝わったと感じました。それは、

「袖ヶ浦ひかりの学園の暖かい雰囲気
気が伝わってくる」

「利用者の方の笑顔から幸せに過ごせていると感じる」

との感想の言葉を何人もの方々から頂いたことから明らかでした。日頃、施設の中の様子を地域の方に見て頂く機会はなかなかないのですが、このようにして利用者の方の姿から嬉泉の方針、大切にしていることを感じて頂くことができたのではと非常にうれしく思いました。

閉会後には、ご自由に建物の内覧をして頂きました。各階に案内の職員を配置し、説明や質問を交えながらの見学となりました。今後の地域支援棟における事業内容について、一階の生活介護スペースはどのような生活介護なのか、二階の短期入所居室が広く過ごしやすそう等と様々な質問や意見を頂き、充実した内覧時間となりました。



他施設の職員の方や保護者の方にも、熱心に見て頂き、具体的な質問などもたくさんありました。短期入所を利用していらっしゃる保護者の方からは「こんなきれいで広いところで短期入所を利用できるとは、本当に嬉しく、楽しみにしている。」と喜びの声がかれました。現在袖ヶ浦ひかりの学園では、日中の生活介護の利用者も1日約7～10名とサービスを希望する利用者の増加も見られ、より充実したサービス提供を行うためにも、この地域支援棟を建設できてよかったと感じています。また、短期入所は以前の袖ヶ浦ひかりの学園では1日に2名までしか受け入れることができなかったのですが、それを今回の新棟建設により10名まで定員を拡大できたことも袖ヶ浦という地域におけるニーズに嬉泉として応えていけることになるのではないかと

考えています。

今回のお披露目を振り返り、手探りの中で準備を進めていき、当日まで不安や心配に感じることもありましたが、しかし、いざ会が始まると来賓の方々の暖かいまなざしやお言葉頂き、アットホームな雰囲気になっていました。そして無事に会を終えることができ、本当に有難いという気持ちでいっぱいです。

この度の地域支援棟の建設により、今まで袖ヶ浦で実施してきた地域支援が新しい衣を纏い、地域の方々の祝福を受けて新たな一歩を踏み出したことは、嬉泉の目指すところの共生社会実現に少しだけ近づけたと意を強くしているところです。

(袖ヶ浦ひかりの学園 齋藤 瞳)

《新生活棟への引っ越し》

ここからは、新しい袖ヶ浦ひかりの学園の生活棟（以下、「新棟」と呼称します。）についてご報告します。8月2日に竣工し、8月5日にご利用者の方々の引っ越しが行われました。新棟は2階建て、個室の居室が1階に14室、2階に15室あり、どちらも2ユニットに区切れるようになっていています。どちらのフロアも専用の食堂が南側にあり、外の景色を

見ながら明るい空間で食事を楽しめる様になっています。またユニットとユニットの間に職員の詰所が位置していて、ご利用者の動向を職員が追いやすい安心な配置になっています。基本的に段差のない仕様になっているのと、車椅子用トイレとエレベーターが設置されています。また車椅子用浴槽が1階に設置されていて、将来的な要介護状態への備えになっています。

1階で生活するご利用者の方々を「さざなみグループ」、2階の方々を「せせらぎグループ」と名付けさせていただきました。ちなみに旧この棟で生活される方々の呼称も「こもれびグループ」と変えさせていただきました。

実際にご利用者の皆さんが引っ越されての様子ですが、一部でフロア間移動の必要な方もいらっしゃると思いますが、事前に職員が説明や内覧の機会を設けていたこともあり、全体として混乱や戸惑いはほとんど見られていません。また多くの方が、ご自分の専用室を受けられると同時に、そこに籠りつきりになるのではなく、リビングスペースとしてソファの置いてある、フロアの中央を分ける広い廊下に出てきて、そこを寛ぎの場としています。それは、職



さざなみ食堂



特別浴室

員や他のご利用者という「人」の存在を確認することで、安心を得ている姿のように思われます。その様子を見て、この新棟の建築が、嬉泉の目指す共生社会の実現に繋がる「嬉泉コミュニティ」の萌芽を感じさせられました。

むすびに、今回の建築事業の実施にあたり、大変多くのご厚志を賜りましたことを改めてご報告させていただきます。本当にありがとうございます。

※ご寄附の合計額は、

二六三、三九五、〇〇〇円となりました。
(袖ヶ浦ひかりの学園園長 石井啓)

袖ヶ浦ひかりの学園増改築工事事業にご寄附を頂いた方

平成29年11月～令和元年9月

(敬称略、50音順)

浅野 澄子	黒林 美江	浜ノ園 利夫
荒井 恒夫	黒林 淑子	早瀬 敬
池上 嘉信	五井野 龍雄	原 京子
石嶋 雅司	小林 美津江	平野 フサ子
伊藤 和子	小林 泰子	フェニックス保険サービス(株)
井口 聡	齋藤 正樹	藤井 今日子
岩崎 勇太	齋藤 穂	藤本 邦彦
岩藤 美枝子	猿渡 智子	藤本 眞起子
植田 照美	杉山 雅子	藤本 美江子
内田 利恵	鈴木 勝彦	船曳 由美
大久間 澄子	関 要	堀 弘子
大久間 展樹	竹内 昭子	前川 千寿子
大竹 政宏	竹原 智紀	前川 長慶
大山 幸子	竹原 直幸	松井 吉彌
小川 哲朗	舘 裕	南村 昇
小野 修一	舘 靖子	村田 いづみ
小野 多規子	田邊 麻里	村田 堅一
小野 数子	谷口 真由美	茂木 勝衛
小原 瑞穂	田畑 昭江	持田 才子
笠松 敦子	田村 聰達	盛川 輝久
笠松 茂樹	田村 紀子	盛川 理恵
笠松 直樹	千葉 恵美子	森本 昇
笠松 秀樹	塚越 裕子	山岸 陽子
笠松 有紀	土谷 新	山中 勝子
片桐 弘子	時永 清子	湯浅 成子
賀戸 文彦	新妻 あぐり	湯原 育文
菊川 明雄	二木 美都子	横尾 文代
工藤 鎮子	納土 郁子	吉賀 公一
工藤 成一	野田 康生	吉原 貞
工藤 田鶴子	野田 順子	吉村 美喜子



平成30年度社会福祉法人嬉泉事業報告

1. 法人全体

(1) キャリアパス・システム

人事制度の中核であるキャリアパス・システムの再構築は、前年度からの継続課題であり、執行本部内に設置したプロジェクトチーム「キャリアパス策定検討委員会」の活動によって、法人としての人材育成ツールである「キャリアパス・フレーム」「育成アセスメント票」「育成研修シート」を完成させ、次年度の本格運用に向けた試行を行うことができた。

(2) 自閉症実践療育セミナー

第32回自閉症実践療育セミナーを開催し、法人内の事業所での2事例の発表を通して、受容的交流の立場に立った支援における「人間性重視」の重要性を検証・確認した。更にそれを年度末の職員全体研修の場で発表し、法人全体で共有する機会を持つことが出来た。

(3) 次世代育成プロジェクト

近年取り組んできた次世代育成プロジェクトが、産休・育休取得率の向上や育休復帰者の増加という成果を得、それが更に平成30年度の東京都女性活躍推進大賞優秀賞の受賞と

いう形で社会的に評価されたことである。

(4) 施設整備

前年度に計画した袖ヶ浦ひかりの学園の生活棟増改築及び地域支援棟新築事業の着工が平成30年10月に行われた。当初の予定よりも遅れたが、ご家族をはじめ、多くの方々のご協力により、無事、着工することができた。

(5) 苦情解決実績

・ 苦情申出件数 0件

(6) 第三者評価受審事業所

- ・ すこやか園
- ・ 宇奈根なごやか園
- ・ 鎌田のびやか園
- ・ 袖ヶ浦のびろ学園
- ・ 袖ヶ浦ひかりの学園
- ・ 清瀬市子どもの発達支援・交流センター
- ・ 大田区立こども発達センターわかばの家

2. 各事業拠点報告

(1) 「子どもの生活研究所」療育部門

めばえ学園、おおらか学園、東京都発達障害者支援センター、さらに保育所（すこやか園・宇奈根なごやか園）などの事業所の実質的な運営

を有機的に連携させた「クローバーシステム」を基盤として、子どもの

生活研究所こぐま学園、特定相談支援事業所との関係も含めて法人内の他の事業との協力体制を図りながら、事業運営を行った。法人の職員研修の場としての位置づけを更に強化し、積極的に人事交流を展開した。また、社会福祉法人の責務として、世田谷区の世田谷区社会福祉協議会が設置する「社会福祉法人地域公益活動協議会」に参画し、地域における公益的な取り組みを実施し、世田谷区内で児童発達支援センター事業や相談支援事業などを通して中心的に関わった。相談支援事業所は、他事業所利用の区民のサービス利用の援助等を行った。こぐま学園は、利用者との信頼関係に根ざした一貫性のある支援の継続に努めた。めばえ学園は、定員を30名から20名に変更し安定した事業運営を目指した。おおらか学園は、世田谷区及び他事業者等、関係諸機関との連携をより一層強化して支援に努めた。東京都発達障害者支援センターは、相談支援と区市町村の発達障害者支援体制整備に向けてのバックアップの二つの柱で運営した。東京都発達障害者支援者育成事業、東京都ペアレントメ

ンター養成・派遣事業を受託し企画・運営を行った。

(2) 「子どもの生活研究所」保育部門

毎月拠点場長・園長・副園長による法人保育部門会議を開催することで、情報交換・共有を行い、管理運営面での強化を図ることができた。また、利用者に提示する重要事項説明書の見直し、災害対策ガイドライン策定に向けての作業等を行い、各園の現状を確認し合うと共に、より有用なものになるよう努めた。保育部門管理者により職員の階層別研修を企画し、所属する保育事業所を越えて職員が交流を図り、学びの機会となった。また、主任保育士については自主的に企画を促し、自園での取り組みについて情報交換・共有を行う中で、日常業務の見直しを図ることができた。保育内容に関しては、「子どもが主体性を持って、自発的・意欲的に友達や保育者と関わることを進めると共に、相互の信頼関係を土台として、様々な体験を積み重ね学び合う」という受容的交流理論に基づいた保育を行った。特に子ども

の主体性を尊重し、乳児期の子どもには保育者や保護者との愛着関係を基盤とし、一人一人の発達過程や心身の状態に応じた適切な援助及び環境を整えた。3歳児以上の幼児には、法人内保育事業所の子どもと行事を

通しての交流の機会を持ち、仲間関係を広げ、社会性の発達を促すと共に、5領域の教育的取り組みを設定し、それに対応する関わりを行った。保護者支援においては、送迎時の対応・相談や助言・連絡や通信、会合や行事など様々な機会を活用して行った。また、配慮や支援を必要とする家庭においては、法人・各関係機関との連絡・連携を密に行い、その家庭にとって有益となるよう支援に努めた。地域に開かれた保育所として、地域の親子への支援を目指し、すこやか園では『すこやか広場』との交流を多く持った。また、すこやか園分園キリンに隣接する笹原小学校との交流や、世田谷区教育委員会による就学前施設と小学校との連携事業であるスタートアップカリキュラム策定委員会に参画し、小学校との連携の強化を図った。宇奈根なごやか園・鎌田のびやか園では、近隣の老人施設との交流を行うと共に、学校との関係を持つ等の世代間交流を行った。鎌田のびやか園では、すこやか園分園クジラの閉園に向けて、受け入れ枠拡大のための定員変更を行った。

(3) 嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

前年度は離職者が少なかったが、本年度は増加してしまった。離職す

る原因の一つに、利用者の24時間の生活をすべて抱えていくという入所施設ならではの状況の負担や多岐にわたる業務量の多さもあると考えられる。それは如何ともし難いことではあるが、今後はキャリアパス制度を活用した人材育成を通して、業務遂行の困難さをやりがいに変化していくような取組をしていく必要がある。袖ヶ浦ひかりの学園増改築事業は、「入所者の〇〇向上」「高齢化対応」「地域支援の拡充」という3つのコンセプトの下で、完全個室化及びバリアフリー化された「生活棟の増築」、医務、厨房、整理室の拡張による居住サービス強化としての「既存スペースの改修」、生活介護（通所利用対応部分）及び短期入所希望者の増加に应运えて専用スペースを設ける「地域支援棟の新築」の3工事事業としての実施が決まり、10月から工事が開始された。袖ヶ浦のびろ学園は設立40周年の年であったが、拠点として上記の大きな施設整備事業の実施があったため、記念事業はペンディングとなった。袖ヶ浦のびろ学園は、年度内の新入園児は、9名（措置0名、契約9名）であった。家庭や学校と連携を取り、学校生活への適応や家庭帰宅の調整を個別に行い、学園だけではない本人の社会

生活を維持する中での入所施設支援体制をとった。袖ヶ浦ひかりの学園は、一昨年度より、施設建物の増改築に向けて検討委員会を実施し、保護者との意見交換会や職員を交えての検討を重ねた結果、平成30年10月に着工することが出来た。地域生活支援センターたのしみは、袖ヶ浦市指定による「特定相談支援事業」「障害児相談支援事業」及び、千葉県指定による「一般相談支援事業」の指定を受けて事業を行った。また、袖ヶ浦市から袖ヶ浦市社会福祉施設等連絡協議会が受託した市の障害者相談支援事業に相談員を派遣し、地域の障害児（者）への支援を行った。袖ヶ浦市福祉作業所うぐいす園は、本人の状況、家庭の状況の把握をしていくこと、それと同時に利用者との関係作りに重きを置き支援を行った。また、個別での家庭との面談を支援計画策定時に年間3回設定し、支援の内容や方法への理解が深まるような機会を持った。その積み重ねもあってか、保護者には当法人の療育方針に対してのある一定の理解は得られたと思われる。

(4) 板橋区立赤塚福祉園

デイセンターさららの自主制作品とワークセンターはばたきのラスク等の共通ブランド「ATB」につい

ては、板橋区内外のイベント等への積極的な参加を通じて、ブランド力の向上及び販売活動の強化を図った。また、新たに、地域包括ケアシステム「板橋区版AIP」の支えあい会議下赤塚に会議体の構成員として参画した。板橋区社会福祉法人施設等連絡会の活動については、フーンドライブへの協力など、積極的に参加した。デイセンターさららは、「在園時間の延長」を行い、従来からの「延長サービス」とともに家庭支援の一助となった。ワークセンターはばたきは、作業種が多岐にわたったことで、利用者の選択の幅が増え、利用者の強みを生かした作業展開ができた。赤塚ホームは、介護者の高齢化に伴う急な入院、家庭内の問題等により、長期利用を要する利用が増加しており、板橋区との調整を要するケースが増えている。

(5) 清瀬市子どもの発達支援・交流センター

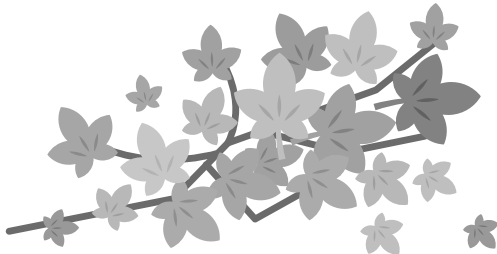
「地域と連携・交流しながら地域にくらす親子をささえる」を基本理念として、法人が長年にわたり培ってきた実績に基づく理念「受容的交流理論」や、現スーパービジョン体制の下に心身の発達に遅れやかたよりのある子ども、さらに社会生活上何らかの問題を持つ子どもとの相談・

訓練指導を通して成長・発達を援助し、地域での育ちを支えることを目的とし運営を行った。また、対象となる本人や家族だけではなく、その方を取り巻く関係者への支援をする等、地域の支援力の向上に努めると共に、相談・療育・支援の場の提供だけではなく、地域療育の拠点となることを目指し、地域活動にも積極的に参加をしながら連携に努めた。

(6) 大田区立こども発達センター
わかばの家

大田区の定める運営方針に基づき「乳幼児の支援」「保護者との連携・支援」「関係機関との連携」「地域と触れ合う施設づくり」を行った。支援においては、本法人が長年培ってきた『受容的交流』の立場から「人間性重視の支援」を基本方針とし、「相談支援事業」「地域支援事業」「早期支援事業」と「指定相談支援事業所」の運営を行った。年々相談者数、利用希望者数が増加し続け、新規利用者の受け入れや個別的支援の提供ができにくい状況に対して、「グループでのフォローアップ」や「グループでの学習会・相談会」を複数実施する等、引き続き、必要な支援を少しでも効率的に提供できるような工夫に努めた。また初回面接（インタビュー）までの待機が長期化しているこ

とが、前年度からの問題となっており、今年度、可能な範囲で初回面接の実施数を増やした。区の所管課との協議を重ねてきた中で、次年度から、区立施設の役割として「相談の枠組みでの支援と地域支援を充実させていく」方向が明確となり、療育については、わかばの家の療育と民間療育機関の併用はせず選択利用が原則となった。



貸借対照表

社会福祉法人 嬉泉
平成31年3月31日現在

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	941,642,258	1,100,878,151	△ 159,235,893	流動負債	331,107,735	322,135,201	8,972,534
固定資産	1,989,875,913	1,968,428,917	21,446,996	固定負債	130,928,565	206,137,533	△ 75,208,968
基本財産	1,534,629,874	1,617,115,408	△ 82,485,534				
その他の固定資産	455,246,039	351,313,509	103,932,530	負債の部合計	462,036,300	528,272,734	△ 66,236,434
				純資産の部			
				基本金	1,111,718,279	1,111,718,279	0
				国庫補助金等特別積立金	592,300,480	643,411,132	△ 51,110,652
				その他の積立金	38,000,000	38,000,000	0
				次期繰越活動増減差額	727,463,112	747,904,923	△ 20,441,811
				(うち当期活動増減差額)	△ 20,441,811	287,457,776	△ 307,899,587
				純資産の部合計	2,469,481,871	2,541,034,334	△ 71,552,463
資産の部合計	2,931,518,171	3,069,307,068	△ 137,788,897	負債及び純資産の部合計	2,931,518,171	3,069,307,068	△ 137,788,897

資金収支計算書

社会福祉法人 嬉泉

(自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日

勘定科目			予算 (A)	決算 (B)	差異 (A)-(B)
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	52,202,000	53,554,028	△ 1,352,028
		保育事業収入	771,471,000	778,397,403	△ 6,926,403
		就労支援事業収入	27,650,000	25,572,115	2,077,885
		障害福祉サービス等事業収入	1,784,925,069	1,787,813,664	△ 2,888,595
		相談事業収入	4,209,000	4,238,000	△ 29,000
		利用料収入	3,300,000	3,226,920	73,080
		借入金利息補助金収入	323,578	296,698	26,880
		経常経費寄附金収入	3,635,000	6,497,192	△ 2,862,192
		受取利息配当金収入	257,134	201,966	55,168
		その他の収入	52,883,182	50,408,849	2,474,333
		事業活動収入計 (1)	2,700,855,963	2,710,206,835	△ 9,350,872
		支出	人件費支出	2,106,937,728	2,071,502,840
	事業費支出		234,006,865	223,828,664	10,178,201
	事務費支出		366,141,012	347,259,802	18,881,210
	就労支援事業支出		27,650,000	25,572,111	2,077,889
支払利息支出	1,915,000		1,767,379	147,621	
その他の支出	8,150,000		0	8,150,000	
事業活動支出計 (2)	2,744,800,605		2,669,930,796	74,869,809	
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)			△ 43,944,642	40,276,039	△ 84,220,681
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	2,495,000	2,495,000	0
		施設整備等寄附金収入	9,000,000	230,000	8,770,000
		施設整備等収入計 (4)	11,495,000	2,725,000	8,770,000
	支出	設備資金借入金元金償還支出	16,535,932	16,513,000	22,932
		固定資産取得支出	117,055,974	116,262,554	793,420
		ファイナンス・リース債務の返済支出	5,580,520	5,574,312	6,208
		その他の施設整備等による支出	14,661,632	8,773,904	5,887,728
		施設整備等支出計 (5)	153,834,058	147,123,770	6,710,288
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)			△ 142,339,058	△ 144,398,770
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	6,076,384	6,076,384	0
		拠点区分間繰入金収入	3,441,503	0	3,441,503
		サービス区分間繰入金収入	33,943,200	0	33,943,200
		その他の活動による収入	634,000	624,488	9,512
		その他の活動収入計 (7)	44,095,087	6,700,872	37,394,215
		支出	長期運営資金借入金元金償還支出	21,261,056	20,840,000
	積立資産支出		4,689,344	4,689,344	0
	拠点区分間繰入金支出		3,441,503	0	3,441,503
	サービス区分間繰入金支出		33,943,200	0	33,943,200
	その他の活動による支出		14,191,536	14,191,536	0
	その他の活動支出計 (8)		77,526,639	39,720,880	37,805,759
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)		△ 33,431,552	△ 33,020,008	△ 411,544
	予備費支出 (10)			0	0
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)			△ 219,715,252	△ 137,142,739	△ 82,572,513
前期末支払資金残高 (12)			743,385,350	778,742,950	△ 35,357,600
当期末支払資金残高 (11)+(12)			523,670,098	641,600,211	△ 117,930,113

事業活動計算書

社会福祉法人 嬉泉

(自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日

勘定科目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A)-(B)
サービス活動増減の部	収益	児童福祉事業収益	53,554,028	60,087,364	△ 6,533,336
		保育事業収益	778,397,403	748,538,150	29,859,253
		就労支援事業収益	25,572,115	23,370,955	2,201,160
		障害福祉サービス等事業収益	1,787,813,664	1,742,750,968	45,062,696
		相談事業収益	4,238,000	5,120,000	△ 882,000
		利用料収益	3,226,920	2,285,970	940,950
		経常経費寄附金収益	6,497,192	4,141,331	2,355,861
		その他の収益	47,792,189	78,538,987	△ 30,746,798
		サービス活動収益計 (1)	2,707,091,511	2,664,833,725	42,257,786
	費用	人件費	2,070,115,800	1,988,244,091	81,871,709
		事業費	223,828,664	215,448,872	8,379,792
		事務費	347,259,802	322,698,487	24,561,315
		就労支援事業費用	25,572,111	23,370,971	2,201,140
		減価償却費	102,855,006	98,814,392	4,040,614
国庫補助金等特別積立金取崩額		△ 52,746,397	△ 47,416,322	△ 5,330,075	
サービス活動費用計 (2)		2,716,884,986	2,601,160,491	115,724,495	
サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)		△ 9,793,475	63,673,234	△ 73,466,709	
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益	296,698	487,166	△ 190,468
		受取利息配当金収益	201,966	171,351	30,615
		その他のサービス活動外収益	2,616,660	2,390,192	226,468
		サービス活動外収益計 (4)	3,115,324	3,048,709	66,615
	費用	支払利息	1,767,379	2,238,354	△ 470,975
		その他のサービス活動外費用	0	27,527,634	△ 27,527,634
		サービス活動外費用計 (5)	1,767,379	29,765,988	△ 27,998,609
	サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	1,347,945	△ 26,717,279	28,065,224	
経常増減差額 (7)=(3)+(6)			△ 8,445,530	36,955,955	△ 45,401,485
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	2,495,000	52,664,000	△ 50,169,000
		施設整備等寄附金収益	230,000	263,165,000	△ 262,935,000
		拠点区分間固定資産移管収益	△ 1,510,271	1,510,271	△ 3,020,542
		特別収益計 (8)	1,214,729	317,339,271	△ 316,124,542
	費用	固定資産売却損・処分損	0	5	△ 5
		国庫補助金等特別積立金積立額	125,474	54,888,000	△ 54,762,526
		その他の特別損失	13,085,536	11,949,445	1,136,091
		特別費用計 (9)	13,211,010	66,837,450	△ 53,626,440
	特別増減差額 (10)=(8)-(9)	△ 11,996,281	250,501,821	△ 262,498,102	
当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)			△ 20,441,811	287,457,776	△ 307,899,587
前期繰越活動増減差額 (12)			747,904,923	460,447,147	287,457,776
当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)+(12)			727,463,112	747,904,923	△ 20,441,811
基本金取崩額 (14)			0	0	0
その他の積立金取崩額 (15)			0	0	0
その他の積立金積立額 (16)			0	0	0
次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)			727,463,112	747,904,923	△ 20,441,811

< 第55回嬉泉バザーのお知らせ >

- ・ 日時：令和元年11月10日（日） 10：00～14：00
- ・ 住所：東京都世田谷区船橋1-30-9 電話：03-3426-2323
- ・ 主催：社会福祉法人嬉泉 後援：世田谷区・嬉泉後援会



第41回嬉泉祭りバザー報告

平成31年3月3日(日)、嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦に於いて、第四十一回嬉泉祭りバザーが開催されました。今年はいにくの雨模様となりましたが、来場者数は962人と、多くのお客様にご来場いただき、各コーナーとも、開始から終了まで客足が途絶えることがなく、盛況のうちを終えることができました。

今回は、例年通りのバザーの目的である「自主財源の確保(収益)」、「地域交流」、「職員研修」の三つを柱にしながら、不景気の影響で企業からの献品による収益は見込めない中で、どのようにバザーを運営していくか、模索しながら準備を進めていきました。

ここで、簡単に各コーナーについて、当日の様子も含めてお伝えしたいと思います。

献品コーナーは、企業からの献品がなかなか集まらない中で、保護者や職員に呼び掛けたことで品物が集まり、当日はお客様が途切れることなく、どうにか営業できました。しかし、年々売上も減少しているのので、コーナーの在り方を考える契機となりました。

手芸コーナーは、手芸品の展示を

工夫し、雑貨屋さんのような雰囲気でした。店内は終始賑わいを見せ、売り上げが前年よりも上回りました。

食堂コーナーは、悪天候の上にとっても寒い中だったので、温かいメニューが好評で、客足が途絶えることなく大盛況でした。

広報・委託・地域交流のコーナーは、各事業所の紹介、各事業所の作品の販売など嬉泉の各事業所の活動を紹介するコーナーです。毎年好評なのびるパンは、今回もあつという間に完売しました。

子どもコーナーは、終始賑わいを見せ、景品を楽しみにゲームに参加するよりも、ゲームそのものを楽しむお子さんが多かったのが印象的でした。

後援会コーナーは、嬉泉に馴染み深いお客様を中心に足を運んでいただきました。石井記念館を見に来館した方も多く見られました。

今回バザーを開催するにあたり、各拠点事業所の職員が各コーナーの準備を主体的に進めたことと、バザー当日には前年を大きく上回る職員が参加したことで、円滑にバザーを運営できたと感じました。

次回は、嬉泉祭りバザーから衣替えをして、10月の嬉泉ふれあい祭りと3月の嬉泉祭りバザーを一つにま

とめて「嬉泉ふれあい祭りバザー」と名称を変えて開催する予定でしたが、台風の影響で中止となり、次年度に持ち越しとなりました。冒頭に挙げた通り収益が見込めない中、地域の方々との交流を中心にお祭りとしてバザーを運営していくことで、法人の取り組みや、ここで生活している利用者のことを知っていたいただき、嬉泉が目指すところの共生社会の実現に近づけるきっかけの一つとなるイベントにしていきたいと考えています。

最後に、毎年のことではありませんが、今回も地域からボランティアとして参加していただいた方々が、嬉泉の職員と一緒にバザーを盛り上げてくださいました。また、後援会の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係者の皆様へ、紙面をお借りして御礼申し上げます。

(嬉泉祭りバザー総務 大友彰)



台風15号被害報告(速報版)

9月9日未明に襲来した台風15号の影響で、嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦は、大きな被害を被りました。敷地内の多くの樹木が文字通り根こそぎ倒壊したのと、自転車指導棟の屋根やキッチン小屋、休憩小屋、物置、ガレージ等の一部または全部が飛ばされました。また学園から取付道路に通じる林道を走る電気の引き込み線に多数の倒木が倒れ掛かり、断線している箇所もありました(この倒木の撤去に自衛隊が来た程です)。その時に発生した広域の停電で、学園も全ての電力が断たれてしまいました。非常用発電機により入所棟の2/3はエアコンや炊飯器などの電力を確保することが出来ましたが、新棟や事務所、通所部門の棟など、電気の行き渡らない所があったり、洗濯機や大型冷蔵庫など発電機では賄い切れない機器もあったりと、入所者の生活に多大な制約が生じました。停電11日目の9月20日に、ようやく電力が復旧しましたが、その間何より厳しかったのは、復旧の見通しが中々立たなかったことで、自閉症の人にとって、耐えがたい不安を感じて過ごされた日々でした。

(嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

統括施設長 石井啓)